

2017年12月5日

(臨床研究に関するお知らせ)

和歌山県立医科大学附属病院耳鼻咽喉科に、中咽頭がんで通院歴のある患者さんへ

和歌山県立医科大学医学部解剖学第一講座と耳鼻咽喉科学講座では、過去の診療情報や検査試料等を振り返り解析する、以下の後向き観察研究を行います。この臨床研究は、本学の倫理審査委員会の承認を得て行うものです。すでに存在する情報を利用させていただく研究ですので、対象となる患者さんに新たな検査や費用のご負担をお願いするものではありません。また、対象となる方が特定されないよう、個人情報には十分に注意を払います。

この研究の対象に該当すると思われる方で、ご自身の診療情報等のデータを利用について望まれない場合、ご質問がある場合は、下記の問い合わせ先にご連絡ください。

1. 研究課題名

HPV 陽性中咽頭がんにおける AKR1C3 遺伝子及び PTHLH 遺伝子の発現抑制と治療効果および治療予後との関連性についての臨床病理学的検討

2. 研究責任者

和歌山県立医科大学医学部 解剖学第一講座 講師 山本悠太

3. 研究の意義

咽頭がんには上咽頭がん、中咽頭がん、下咽頭がんがあり、飲酒や喫煙が危険因子として考えられておりますが、中咽頭はヒトパピローマウイルス (HPV) の感染するため、HPV もまた中咽頭がんの危険因子として考えられております。しかし、HPV に感染した中咽頭がんでは非感染の中咽頭がんに比べ治療予後が良いことが世界的に報告されており、この治療予後と HPV 感染の関係を明らかにすることで HPV に感染していない中咽頭がんの治療予後を改善させる可能性があります。

我々は、世界的な遺伝子発現データベースより HPV 陽性の中咽頭がんで AKR1C3 および PTHLH 遺伝子の発現が低下していることを見出しました。本研究では、ステージIVの中咽頭がんのうち HPV 感染した症例で、AKR1C3 および PTHLH 遺伝子から作られるタンパク質が減少しているかどうか解析します。また、これらのタンパク質の量と治療予後との関係について統計学的な解析を行い、新たな治療予後の診断法および新規治療法の確立を目指します。

4. 研究の目的

研究の目標は、HPV 感染していない中咽頭がんの新規治療法の確立です。HPV 陰性の中咽頭がんでは、放射線治療や抗がん剤による効果が HPV 陽性の中咽頭がん 비해低いため、HPV 陽性の中咽頭がん、放射線治療や抗がん剤による効果が高い理由を解析し、新規治療法の確立につなげる。

5. 研究の概要

(1) 対象となる方

本学附属病院にて、平成 20 年 1 月以降平成 29 年 11 月までに中咽頭がんの診断の為に生検を行われた方

(2) 利用させていただく情報および試料

本研究では、カルテデータのうち年齢、性別、中咽頭がんにおける HPV 感染歴、予後に関する情報と生検時のがん組織標本を利用します。

(3) 方法

生検時に採取した中咽頭がん組織の標本を薄切し、抗 AKR1C3 抗体および抗 PTHLH 抗体を用いた免疫組織化学を行います。また、標本よりタンパク質を抽出し AKR1C3 遺伝子および PTHLH 遺伝子より作られるタンパク質の量と治療予後の関係について統計学的に解析を行います。

6. ご自身の情報が利用されることを望まない場合

研究は医学の進歩に欠かせない学術活動ではありますが、ご自身の健康診査に関する情報が利用されることを望まれない場合は、これを拒否する権利があります。その場合は、下記までご連絡ください。研究対象から除外させていただきます。なお、研究協力を拒否された場合でも、保健医療福祉サービスを含め、いかなる不利益も被ることは一切ありません。

7. 問い合わせ先

和歌山県立医科大学医学部 解剖学第一講座 講師 山本悠太

〒641-8509 和歌山県和歌山市紀三井寺 811-1

Tel: 073-441-0616 Fax: 073-441-0860

E-mail: yuta-y@wakayama-med.ac.jp